



ホッカイシマエビ漁のこと

教頭 伊藤 友紀



先般、別海町尾岱沼の「えびまつり」がニュースになっていた。野付湾で獲れるホッカイシマエビである。中標津町に住んでいたころなので、20数年前であるが、知り合いの漁師さんに誘われてシマエビ漁の手伝いをしたことがある。野付のシマエビ漁は湾にある藻を傷つけないように打瀬船で漁にでるが、標津のシマエビ漁は外海なので、船外機をつけた小さな船で漁にでる。

外海でのエビ漁は、エビ籠漁である。10個程度のエビ籠を一本のロープにつなげ海に仕掛けておく。餌は厚岸でとれた旬のサンマであった。前年の盛りの時期に安く買い付け冷凍しておいたものである。シマエビの餌なのであるが、もちろん焼いて食べても旨い。何しろ旬の盛りの時期の丸々と太ったサンマである。魚焼きのグリルが火事になるのではないかなと思うほど脂が出る。あれは、旨かった。

エビ籠を使った漁は、ロープをたぐって籠を船にあげ、籠の中のエビをあけて、餌のサンマを新たに仕掛けて、籠を海に投げ入れる。この繰り返しで100個以上の籠を上げた。籠の中に海老があってもなくても、量が多くても少なくても手間はそれほど変わらない。これが漁のシビアなところなのだろう。大漁でも不漁でも手間も経費も変わらないのである。仕掛けた場所で漁の出来は大きく違うようだった。獲れた海老は冷たい氷水で保管する。塩水でゆで上げるのであるが、何しろ鮮度が命である。鮮度を下げない工夫と手間が必要なのである。エビ籠をつるしたロープの先には「アンカー」といって、重りとなる大きなイカリがついている。うっかり巻き上げるとイカリが船に飛び込んでくることもある。小さな船で小さい仕掛けで漁に出るが、危険がつねに隣り合わせにあることを知った。

たった1日のホッカイシマエビ漁であったが、小学校の社会科の教科書にあるような「漁師さんの苦労と工夫」みたいなものを実感する「大人の社会見学」であったと思う。どうせなら「プロ」から学ぶ、「本物」で学ぶ、実際に体験し「五感」で学ぶ、そんな貴重な経験でもあった。本校における児童生徒の学びのなかでも、そのようなことを常に考えていきたいと思う。

8・9・10月行事予定

8月19日(火) 2学期始業式

8月25日(月) 前期期末考査(～9/5)

10月6日(木) 振替休業日(10/11分)

10月11日(土) 学校祭

10月27日(月) 保護者参観・懇談週間(～10/31)

校外学習～エスコンフィールド～

5月14日(水)、エスコンフィールド HOKKAIDO で日本ハムファイターズとオリックス・バファローズとの試合を観戦してきました。

当日は天候にも恵まれ、移動中は球場までの景色を楽しんだり、球場内では選手が活躍の様子をたくさん見たりすることができました。時間の関係で最終回まで観戦することはできませんでしたが、試合結果を気にする生徒も見られました。

帰校後のアンケートでは「初めてのことでわくわくした」「ヒットになったときに友達と一緒に盛り上がるのができて楽しかった」「普段、球場で野球を観戦することがないので良い思い出になった」と回答する生徒もいました。

次は体育の授業で実際に野球を行う予定です。観戦して感じたこと学んだことを、実際の学習に活かしてほしいと思います。(文責 梅野)



小・中学部合同「学部集会」

7月の小・中学部集会で、ボール・あひるつかみ、魚釣り、的当て等の夏祭りイベントを行いました。ボール・あひるつかみでは、先にネットの付いた握りを持ち、水面を優しくたたいたりしながら水に浮かぶボール等をすくいました。魚釣りでは釣り竿をキュッと握りながら、マグネット付きの釣り糸を垂らし「よいしょ、よいしょ」と教師と一緒に、笑顔を見せながら魚を釣りました。にぎやかな盆踊りの歌や歓声の中、仲間とともに夏を感じる時間となりました。(文責 鎌田)



中学部 総合的な学習の時間「見学旅行について」

総合的な学習の時間では、9月に実施予定の見学旅行についての学習に取り組んでいます。パソコンを用いて調べた情報をもとに活動計画を立てる学習や、立てた計画を発表する学習を行っています。6月30日(月)から2週に渡って教育実習生が来校し、中学部の総合的な学習の時間の授業を担当しました。発表で読む文を組み立てる学習では、「だれが、どこで、なにを、どうする」というような文型に合わせて、楽しみにしていることを文で表現することができました。見学旅行先で楽しい経験をたくさん積んでほしいと思います。(文責 喜多)

